

日本住宅ローンは、

認知症・アルツハイマー病への基礎研究に対し、皆さまの住宅ローンの
毎月のご返済 **1件あたり5円** の寄付を行っています。

(年間約500万円)



高齢者の約4分の1、約462万人。

この数字は、平成24年に厚生労働省が推計した認知症患者またはその予備軍の人数であり、現時点ではさらに多いと見られています。

認知症患者の増加とともに、医療費や介護の問題、さらには認知症高齢者を狙った悪質な詐欺事件の増加などが大きな社会問題となっており、認知症の予防と治療が今の医療における最も重要な課題の一つとなっていると言っても過言ではないでしょう。

認知症は、その約7割がアルツハイマー病であり、アルツハイマー病原因となる分子や遺伝的要因も分かってきましたが、まだまだ未知の領域も多く、どのように発症していくのかの詳細も分かっていません。この発症のメカニズムを解明できれば、病気自体を予防することができるようになるかもしれません。

東京大学医学系研究科・岩坪 威教授の研究室では、おもにアルツハイマー病の発症メカニズムに即した予防・治療薬の臨床研究・試験および全国的な研究参加者募集のインフラ構築を含めた技術の開発を推進しており、当社はこの活動に対し、**皆さまの住宅ローンの毎月のご返済1件あたり5円(年間約500万円)の寄付**を行っていきます。

新薬の開発コストからすると、決して多い額とは言えないかもしれませんが、将来、人類からアルツハイマー病の脅威が除かれることを願い、少しでも研究の力となれば幸いです。



▲笑顔で握手を交わす、東京大学医学系研究科 岩坪教授(右)と弊社代表執行役社長 安藤(左)

岩坪威教授 略歴:1984年東京大学医学部卒。2008年米国メトライフ医学賞、2012年米国ボタムキン賞など、認知症関連の研究に大きな業績を上げた研究者を顕彰する世界的に権威のある賞を数多く受賞。現、東京大学大学院医学系研究科教授。専門は神経病理学。アルツハイマー病・認知症研究の第一人者。J-ADNI代表。

東京大学では高齢ボランティアの参加を募集しています



アルツハイマー病発症のメカニズム解明には、生活習慣や既往歴などの数多くのデータ追跡が必要となります。そのため、現在アルツハイマー病を発症していない50歳から85歳までの方で、研究にご協力いただけるボランティアを募っています。ご興味のある方は、是非、下記HPよりご参加いただければと存じます。

<https://www.j-trc.org/> (2019年10月31日より開始)